

2009/3/21

Political Ecology of Life: Ideas on Humanosphere and South Asian Perspective

田辺明生

Keywords: 生存圏、パラダイム・シフト、関係性のなかの生、ポリティカル・エコロジー、ポジティブ・サム・ゲーム

本発表は、環境や貧困にかんするグローバルな認識を問いなおし、アジア・アフリカの諸地域とローカリティの視点から問題を再配置するために、Humanosphere（生存圏）という新たなパースペクティブを提起するものである。転換すべき視座として、①土地（land）→生存圏へ、②北中心→南中心の視点へという2つが挙げられる。

①にかんして、人間と自然の関係性にかんする観念は、一般的に、自然は主体である人間に操作・利用される object（客体）として認識されている。というのは、人間社会の歴史において、公共性の生成とともに個人の信仰や自然が切り離されてきたが、持続可能な発展のためには、公共性を人やモノの assemblage として、あるいは生存圏という観念を中心に据えて捉えなおしていく必要がある。それはヒトと自然、自己と環境を分けるのではない、一つの生命体として捉える、あるいは両者のよりよい関係性で???考え方である。

また、②にかんしては、西洋的な発展や科学技術、及び東アジア、東南アジア-南アジアにおける在地の発展の方法や技術とを結びつける必要がある。

結論として、1. 持続可能な生存圏の発展へ、2. 土地等の生態資源権利をめぐるゼロサムゲームの思想から positive sum game の思考へ、3. 新しい価値や観念を創造するための運動として、生命のポリティカル・エコロジーという3つのコンセプトが提示された。

（記録：濱谷 真理子）